

## 2024(令和6)年度日本SPF豚協会年次報告

小林一彦(日本SPF豚協会)

Kobayashi, K. (2025): Japan SPF Swine Association Annual Report 2024

All about SWINE 67, 2-10

### I. SPF豚認定農場数、飼養母豚数および地域分布

日本SPF豚協会が認定した原々種豚や原種豚(GGP・GP)農場を含むSPF豚農場(以下認定農場とする)数、飼養母豚数および地域分布の推移を表1に示した。

2025(令和7)年3月現在の認定農場総数は169農場(内GGP・GP農場17、一貫生産・繁殖専門農場102、子豚育成・肥育専門農場50)だった。前年度から認定農場は一貫生産と肥育専門Ⅱでそれぞれ2農場減少した(前年度173農場)。母豚

を飼養する認定農場は119戸であった(図1)。飼養母豚数は72,307頭で前年から364頭減少(前年度比99.5%)した(図2)。母豚を飼養する認定農場1戸あたりの平均飼養母豚数は前年度より僅かに減って608頭であった(図3)。地域別及び飼養母豚規模別の内訳を図4に示した。

### II. SPF豚農場の認定と生産成績

日本SPF豚協会が定める認定規則に従ってコマーシャル(CM)SPF豚農場では、防疫設備、防疫管理、ヘルスチェック及び生産成績それぞれ

表1 SPF豚農場総数、飼養母豚数および地域分布

年度	北海道		東北		関東		北信越		東海近畿		中四国		九州		合計		育成・肥育専門農場 農場数
	農場数*	飼養母豚数	農場数*	飼養母豚数	農場数*	飼養母豚数	農場数*	飼養母豚数	農場数*	飼養母豚数	農場数*	飼養母豚数	農場数*	飼養母豚数	農場数*	飼養母豚数	
1995	3	532	26	12,538	37	8,716	15	2,038	1	308	11	2,511	16	12,330	109	38,973	
2000	11	2,512	28	20,444	52	12,407	9	2,202	5	2,101	18	4,363	31	13,795	154	57,824	
2005	14	4,035	31	18,949	57	16,522	10	2,937	2	815	21	7,245	33	19,867	168	70,370	11
2010	15	4,722	34	26,076	49	14,260	10	3,687	3	793	16	6,620	30	21,337	157	77,495	33
2015	14	4,903	31	25,975	42	14,546	9	3,421	1	0	14	7,630	32	23,943	143	80,418	35
2016	14	4,942	32	25,901	43	14,779	9	3,417	1	0	14	7,615	30	22,755	143	79,409	35
2017	13	4,439	32	25,735	42	14,594	8	3,140	2	682	14	6,898	30	22,116	141	77,604	43
2018	13	5,618	33	25,888	42	14,974	8	2,885	2	720	15	7,111	30	22,460	143	79,656	47
2019	13	6,597	30	21,355	41	14,997	7	2,502	2	729	13	6,797	31	22,556	137	75,533	42
2020	13	7,653	28	22,704	40	14,890	7	2,345	2	738	13	6,724	31	22,602	134	77,656	45
2021	13	7,837	27	22,377	40	15,059	6	2,079	2	703	16	7,911	30	21,282	134	77,248	49
2022	13	7,900	23	20,257	37	14,782	6	2,107	1	710	14	6,962	31	21,763	125	74,481	50
2023	12	7,607	23	19,502	33	13,930	6	2,114	1	752	15	7,412	31	21,354	121	72,671	52
2024	12	7,640	23	18,249	33	14,230	6	2,159	1	763	15	8,401	29	20,865	119	72,307	50

\* GGP・GP農場及び母豚を飼養するCM農場

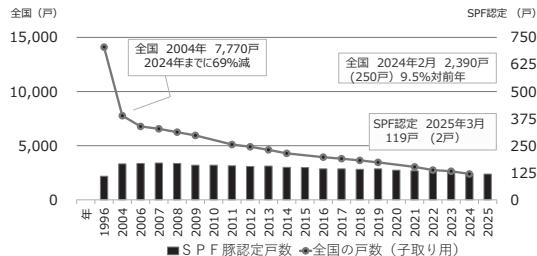


図1 母豚飼養戸数の推移

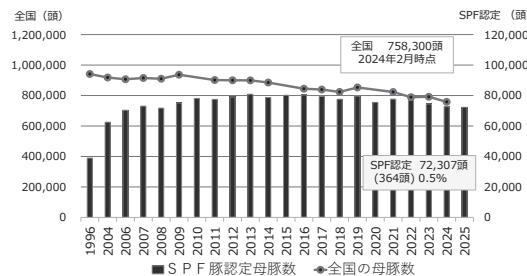


図2 母豚頭数の推移

が毎年基準を満たすことが求められる。生産成績は、一貫生産農場、繁殖専門農場-IIおよび肥育専門農場-IIなどの農場経営形態毎に評価対象とする項目が定められている。

各項目の基準値は2002年度の認定農場の平均値を用いており、各項目が全て基準値と同値であれば指数の合計が100になるよう項目毎に重み付けした指数の合計を生産指数としている。

本報告は、2024(令和6)年6月度、9月度、12月度及び2025(令和7)年3月度の認定委員会に提出されたCM認定農場の生産成績とA分類薬品(抗菌剤)費をまとめたものである。

## 1. 一貫生産農場

一貫生産農場の成績集計は、母豚の計画的増減頭等のない90農場を対象とした。各評価項目の

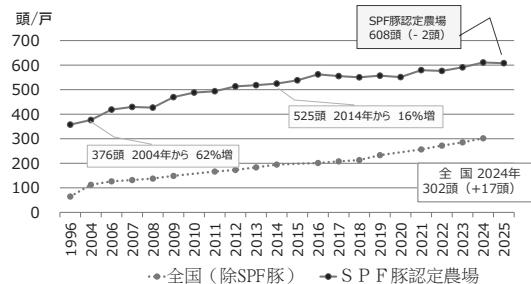
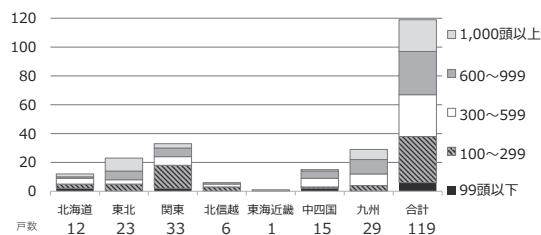


図3 1戸あたり飼養母豚数

図4 SPF豚認定農場の地域別及び母豚規模別戸数  
(GGP・GP, 一貫, 繁殖専門農場)

成績を表2に示した。

### 1) 農場回転数(図5)

農場回転数は平均1.77で前年度と変わりなかった。

以下一貫生産農場の成績を示す図には、90農場の平均とともに各項目の上位25%農場の平均も併せて示した。

### 2) 農場飼料要求率(図6)

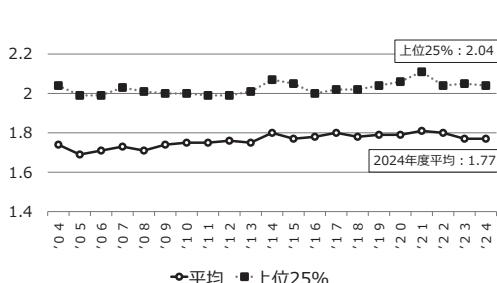
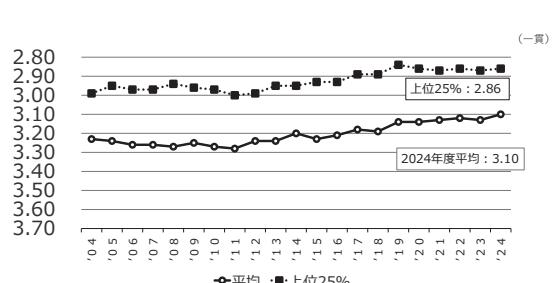
農場飼料要求率は平均3.10(前年度3.13)で0.03ポイント改善した。

### 3) 1母豚あたり年間肉豚出荷頭数(図7)

1母豚あたり年間肉豚出荷頭数は平均23.50頭(前年度比100.1%)でわずかに増加した。基準値21.35頭は15年連続でクリアし、さらに22頭以上は9年連続、23頭以上は4年連続であった。

表2 2024年度 一貫生産農場の生産成績（評価項目）

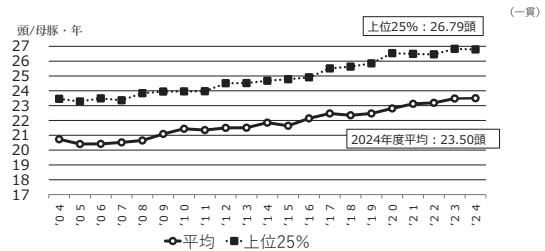
	農場数	母豚数 平均	生産指数	農場回転数		農場飼料要求率		出荷頭数/母豚		A薬品費(円)/肉豚	
				実績	指數	実績	指數	実績	指數	実績	指數
基準値			100.00	1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00
最高成績			138.50	2.26	19.94	2.53	30.17	28.70	53.77	2	39.86
最低成績			80.62	1.26	11.12	3.63	21.55	15.49	29.02	448	8.67
平均値	90	598	107.36	1.77	15.57	3.10	25.70	23.50	44.02	256	22.07
前年度平均値	89	594	106.66	1.77	15.59	3.13	25.46	23.48	44.00	263	21.61
前年比(%)		100.7	100.7	99.9	99.9	99.0	101.0	100.1	100.1	97.5	102.1

図5 農場回転数  
(基準値 1.7 : 指数 15)図6 農場飼料要求率  
(基準値 3.19 : 指数 25)

90農場の内この項目の上位25%の平均は26.79頭で、さらに平均を引き上げる余地は大きい。

図8に哺乳開始頭数、離乳頭数及び肉豚出荷頭数の推移をまとめた。種畜の能力向上による産子数の増加並びに飼養管理技術向上の結果出荷肉豚数は、20年間で3頭程度増加しているが、哺乳開始頭数の増加はそれ以上で、離乳までの期間および育成・肥育期間の損耗改善によりまだ成績向上の余地があると思われる。

4) 出荷肉豚1頭あたりA分類薬品（抗菌剤）費 農場で衛生対策に使用される薬品等のうち抗菌剤をA分類薬品として扱っている。出荷肉豚1頭あたりA分類薬品費は、過去3年増加の傾向にあったが、2024年度の農場平均は256円（前年度263円）で7円減少した（図9）。

図7 1母豚あたり年間肉豚出荷頭数  
(基準値 21.35頭 : 指数 40)

出荷肉豚1頭あたりA分類薬品費の平均が200円以上となるのは10年連続であり、後述する生産指数の伸びを抑制する要因となっている。

2024年度にこの一貫生産90農場で購入されたA分類薬品費の合計額は306百万円で、出荷肉豚（計1,272千頭）1頭あたり241円であった。

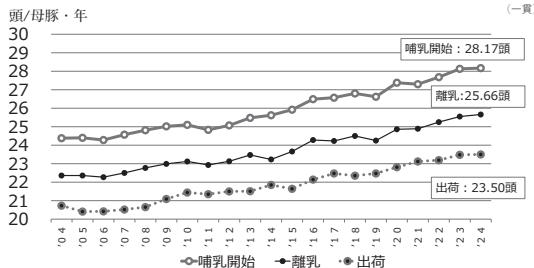


図8 哺乳開始頭数・離乳頭数・肉豚出荷頭数の推移

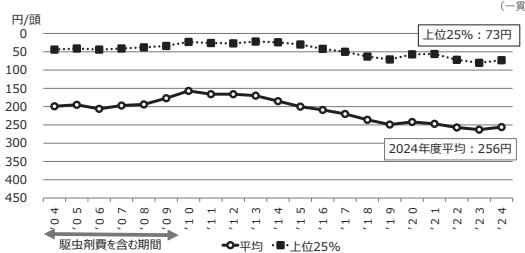
図9 出荷肉豚1頭当たりA分類薬品費(抗菌剤)  
(基準値 286円: 指数20)

表3 全国及びSPF一貫農場における豚用抗菌剤の販売高(購入額)とと畜(出荷)頭数

	全国 (2023年)	SPF一貫農場 (2024年度)
豚用抗菌剤 販売・購入額(百万円)	11,486 a	306
と畜(出荷)頭数(千頭)	16,407 b	1,272
抗菌剤(円)/と畜(出荷)豚	700	241

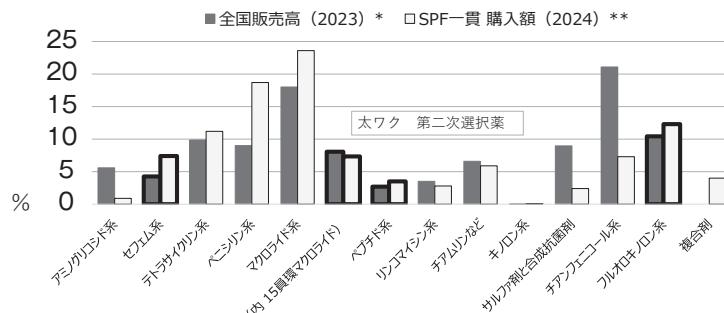
<sup>a</sup>動物医薬品検査所 令和5(2023)年動物用医薬品等製品販売高年報より<sup>b</sup>農林水産省 畜産物流通統計より

図10 豚用抗菌剤の系統別販売(購入)額割合

<sup>\*</sup>動物医薬品検査所 令和5(2023)年動物用医薬品等製品販売高年報より<sup>\*\*</sup>日本SPF豚研究会 2024年度SPF一貫農場認定資料より

一方、全国の2023年度の豚用抗菌剤販売高は11,486百万円で、同年の豚と畜頭数は16,407千頭であることから、全国における出荷豚1頭あたりの抗菌剤費は概ね700円と算出される(表3)。SPF一貫生産農場での抗菌剤費はここ15年ほぼ毎年増加し続いているものの全国と比べると3分の1程度にあたると思われる。

また、上記SPF一貫生産農場で購入された抗菌剤と2023年全国の豚用抗菌剤の購入額(販売高)の系統別割合を図10に示した。それによるとSPF一貫農場ではマクロライド系(23.6%)とベニシリン系(18.7%)の購入額の割合が多く、ついでフルオロキノロン系(12.3%)の順であった。

全国の豚用抗菌剤販売高の系統別と比べるとSPF一貫ではペニシリン系（+ 9.7 ポイント）と15員環マクロライドを除くマクロライド系（+ 6.3 ポイント）の割合が多く、チアンフェニコール系（- 13.8 ポイント）とサルファ剤・合成抗菌剤（- 6.6 ポイント）が少なかった。今回は購入額でまとめたが、使用量の観点からも継続して調査したい。

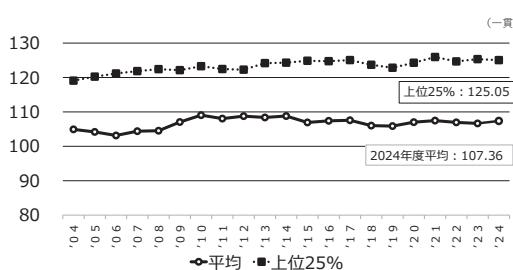


図 11 生産指数

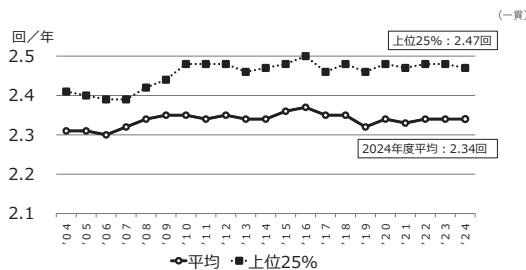


図 12 母豚年間分娩回数

## 5) 生産指数（図 11）

生産指数は 107.36（前年度比 100.7%）でわずかに改善された。これは、農場飼料要求率、肉豚出荷頭数、A 分類薬品費がそれぞれわずかに改善したことによる。

## 6) 参考項目（表 4）

1 母豚あたり年間分娩回数は平均 2.34 回で前年度と変わらなかった（図 12）。

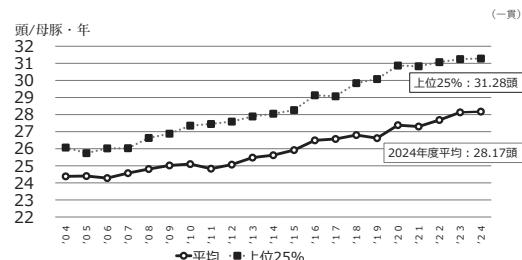


図 13 1母豚あたり年間哺乳開始頭数

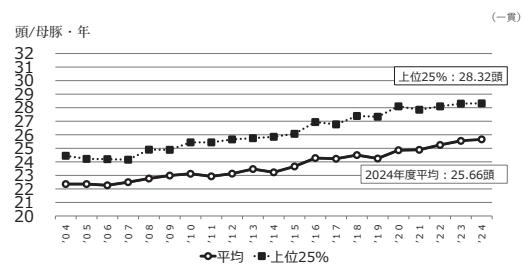


図 14 1母豚あたり年間離乳頭数

表 4 2024 年度 一貫生産農場の生産成績（参考項目）

	農場数	母豚数 平均	分娩回数／母豚	哺育開始子豚頭数／母豚	離乳子豚頭数／母豚	肉豚出荷率 (%)	B薬品費(円)／肉豚
			実績	実績	実績	実績	実績
最高成績			2.52	37.04	33.93	98.98	38
最低成績			1.70	21.26	15.93	72.08	1,896
平均値	90	598	2.34	28.17	25.66	91.62	904
前年度平均値	89	594	2.34	28.13	25.55	92.11	899
前年比 (%)		100.7	100.0	100.1	100.4	99.5	100.6

1母豚あたり年間哺乳開始頭数は平均 28.17 頭（前年度比 100.1%：1腹あたり 12.05 頭）でほぼ変わりなかった（図 13）。1母豚あたり年間哺乳開始頭数が 30 頭を超えた農場は 26 農場（29%）あった（前年度は 25 農場（28%））。

1母豚あたり年間離乳子豚頭数は 25.66 頭で前年より 0.11 頭増加した（図 14）。

肉豚出荷率は平均 91.62% で前年度から 0.49 ポイント下がった（図 15）。

出荷肉豚 1頭あたり B 分類薬品費（ワクチン）は平均 904 円で前年度から 5 円増えた（図 16）。

## 2. 繁殖専門農場Ⅰ・Ⅱ（母豚を飼養して子豚を生産し、30-50kg の育成子豚を肥育専門農場Ⅱに出荷する）

生産成績集計対象の農場数は、前年度と同様

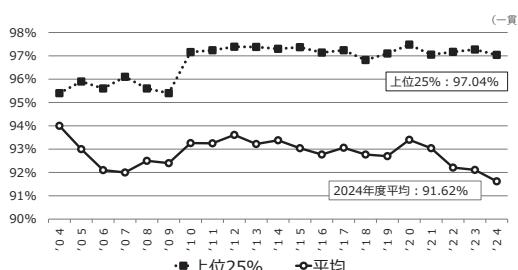


図 15 肉豚出荷率

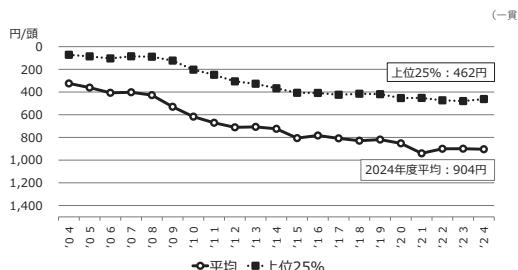


図 16 出荷肉豚 1頭あたり B 分類薬品費（ワクチン）

11 農場だった。各評価項目の成績を表 5 に示す。

### 1) 1母豚あたり年間分娩回数（図 17）

1母豚あたり年間分娩回数は平均 2.31 回、前年度比 100.8% であった。

### 2) 1母豚あたり年間離乳子豚頭数（図 18）

1母豚あたり離乳子豚頭数は平均 24.30 頭、前年度比 99.9% であった。基準値 22.53 頭は 13 年連続でクリアした。

### 3) 1母豚あたり年間出荷子豚頭数（図 19）

1母豚あたり年間出荷子豚頭数は平均 23.62 頭、前年度比 100.6% であった。基準値 21.43 頭は 13 年連続でクリアした。

### 4) 出荷子豚 1頭あたり A 分類薬品費（図 20）

出荷子豚 1頭あたり A 分類薬品費は平均 139 円で前年度から 9 円増加した。

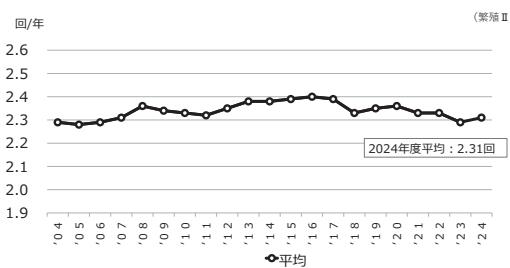


図 17 1母豚あたり年間分娩回数  
(基準値 2.30：指数 20)

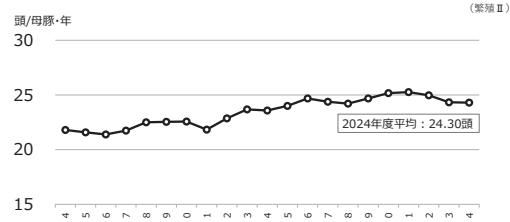


図 18 1母豚あたり年間離乳子豚頭数  
(基準値 22.53 頭：指数 20)

表5 2024年度 繁殖専門農場(Ⅱ)の生産成績(評価項目)

	農場数	母豚数 平均	生産指 数	分娩回数/母豚		離乳頭数/母豚		出荷子豚数/母豚		A薬品費(円)/子豚	
				実績	指 数	実績	指 数	実績	指 数	実績	指 数
基準値			100.00	2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	160	20.00
最高成績			128.91	2.48	21.57	28.37	25.18	27.88	52.04	13	38.38
最低成績			80.68	2.01	17.48	18.63	16.54	18.50	34.53	247	9.13
平均値	11	892	108.38	2.31	20.06	24.30	21.57	23.62	44.09	139	22.65
前年度平均値	11	890	109.09	2.29	19.89	24.33	21.59	23.49	43.84	130	23.77
前年比(%)		100.2	99.3	100.8	100.8	99.9	99.9	100.6	100.6	106.9	95.3

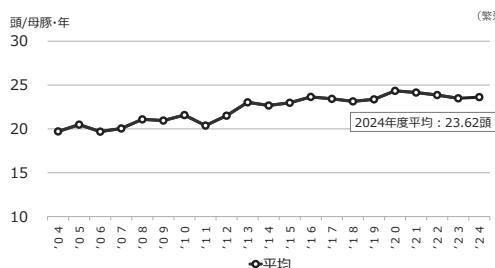
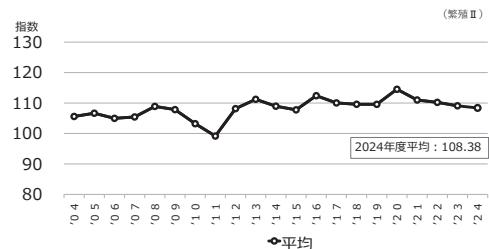
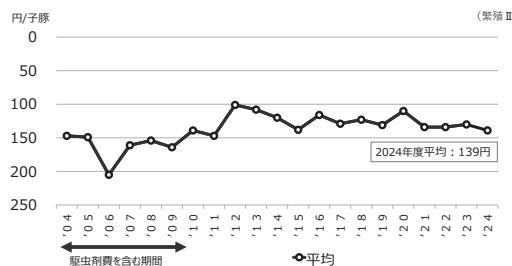
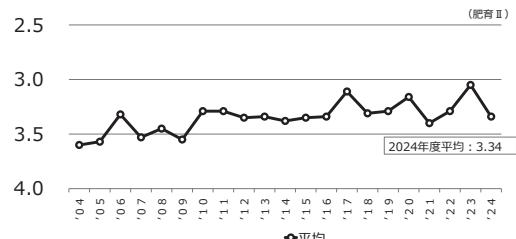
図19 1母豚あたり年間子豚出荷頭数  
(基準値 21.43頭 : 指数40)

図21 生産指数(繁殖)

図20 出荷子豚1頭あたりA分類薬品費(抗菌剤)  
(基準値 160円 : 指数20)図22 農場飼料要求率(繁殖)  
(基準値 3.30 : 指数55)

## 5) 生産指数(図21)

各評価項目指標の合計である生産指標は平均108.38で前年度比99.3%であった。この理由はA分類薬品費が増加して指標が減り、他の3項目がいずれも横ばいだったことによる。

## 6) 参考項目(表6)

哺乳開始頭数が前年より0.1頭減った。子豚出荷率は平均96.31% (前年度96.43%) でほぼ同様であった。出荷子豚1頭あたりB分類薬品費は、平均988円 (前年度978円) で10円増加した。

表6 2024年度 繁殖専門農場(Ⅱ)の生産成績(参考項目)

	農場数	母豚数 平均	哺育開始子豚頭数/母豚	子豚出荷率(%)	B薬品費(円)/肉豚
			実績	実績	実績
最高成績			29.90	99.25	539
最低成績			20.77	84.81	2,284
平均値	11	892	26.50	96.31	988
前年度平均値	11	890	26.60	96.43	978
前年比(%)		100.2	99.6	99.9	101.0

表7 2024年度 肥育専門農場(Ⅱ)の生産成績(評価項目)

	農場数	出荷頭数 平均	生産指數	農場飼料要求率		肉豚出荷率(%)		A薬品費(円)/肉豚	
				実績	指數	実績	指數	実績	指數
基準値			100.00	3.30	55.00	97.50	25.00	126	20.00
最高成績			136.94	2.59	66.83	99.08	40.80	10	38.41
最低成績			23.08	4.61	33.17	90.03	-49.70	190	9.84
平均値	15	9,348	101.88	3.34	54.41	97.36	23.55	101	23.92
前年度平均値	15	8,271	104.24	3.05	59.24	97.26	22.64	111	22.36
前年比(%)		113.0	97.7	109.5	91.8	100.1	104.0	91.2	107.0

表8 2024年度 肥育専門農場(Ⅱ)の生産成績(参考項目)

	農場数	出荷頭数 平均	肉豚出荷日齢(日)	肉豚出荷体重(kg)
			実績	実績
最高成績			161	121.53
最低成績			192	110.34
平均値	15	9,348	174.9	114.59
前年度平均値	15	8,271	171.7	113.25
前年比(%)		113.0	101.9	101.2

### 3. 肥育専門農場-Ⅱ(繁殖専門農場-Ⅱから育成子豚を導入して肥育し肉豚を出荷する)

生産成績集計対象の農場数は、前年度と同様15農場だった。評価項目と参考項目の成績を表7と表8に示す。

#### 1) 農場飼料要求率(図22)

農場飼料要求率は前年度より0.29悪化して平均3.34であった。

#### 2) 肉豚出荷率(図23)

肉豚出荷率は平均97.36%(前年度97.26%)でほぼ同様だった。

#### 3) 出荷肉豚1頭あたりA分類薬品費(図24)

出荷肉豚1頭あたりA分類薬品費は平均101円(前年度111円)で10円改善した。

#### 4) 生産指數(図25)

生産指數は平均101.88(前年度104.24)で前年

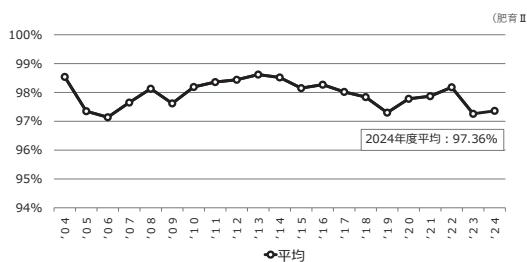


図 23 肉豚出荷率（肥育）  
(基準値 97.5 : 指数 25)

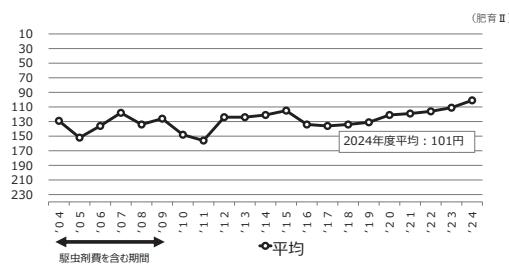


図 24 出荷肉豚 1頭あたり A 分類薬品費（抗菌剤）  
(基準値 126 円 : 指数 20)

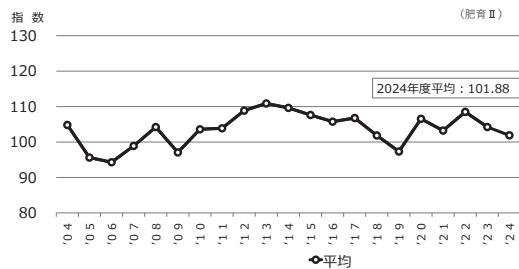


図 25 生産指数（肥育）

度比 97.7% と前年度に引き続き大幅に低下した。A 分類薬品費の改善があっても要求率の悪化分を補えなかったことによる。

#### 参考資料

- ・小林一彦：2023(令和 5)年度日本 SPF 豚協会年次報告 ALL about SWINE No.66. 10-18 2025
- ・動物医薬品検査所：令和 5 年動物用医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生 医療等製品販売高年報
- ・農林水産省：令和 5 年畜產物流通統計より「と畜頭数」